

授業科目名	授業担当者	授業形態	単位数	配当学年	学期			
乳幼児教職論	大江 まゆ子	講義	2単位	1年	後期			
<b>【授業の概要】</b>								
<p>保育という教育への責任感、使命感を養い、子どもから学び、共に成長しようとする姿勢を身につけることを目的とする。また、倫理を含めた保育者の役割について理解を深め、教育的愛情と対話する力の重要性を認識する。保育職の意義、役割、職務内容等への基礎的な知識、制度的位置づけについて学ぶ。その中で、現代における保育の課題に関心を持ち、保育者として求められる専門性について考察することを通じ、自らが目指す保育者像を構築する手掛かりとする。</p>								
<b>【到達目標】</b>	生きる力	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職に求められる資質能力と自己の特性や課題を理解する。</li> <li>・子どもと向き合う保育者のあり方を考え、保育士の専門性について意見を述べることができる。</li> <li>・保育職に対する責任感、教育的愛情、受容的な態度を高め、保育者としての専門的成長を追求する。</li> <li>・子どもの育ち、保護者、地域社会の実態を知り、教育に関わる様々な問題に関心を持って取り組む。</li> </ul>				
		A	DPⅢ-3					
		B	DPⅡ-2					
	感じる力	A	DPⅠ-1					
		B	DPⅠ-2					
		C	DPⅢ-1					
	表現する力	A	DPⅡ-1					
		B	DPⅢ-1					
		C	DPⅠ-3					
	<b>【授業計画】</b>							
	授業の内容					授業時間外の学習		
	1	教職としての保育者に求められるもの				これまでの保育、教育経験を振り返り、印象深かった出来事を思い出し、レポート作成の準備をしておくこと。		
2	保育職の制度的位置づけ及び職務と倫理		新聞、ニュース等を通じ問題意識を持ち、授業に臨む。					
3	乳幼児期の重要性と保育職の社会的役割		新聞、ニュース等を通じ問題意識を持ち、授業に臨む。					
4	現代的課題としての子どもの育ちの危機と保育者の役割		新聞、ニュース等を通じ問題意識を持ち、授業に臨む。					
5	保育者の専門性①一人一人の子どもの思いや育ちを理解する		前期の幼児理解の理論と方法の授業ノート、教科書を読み直しておくこと。					
6	保育者の専門性②子どもと共に心と体を動かす		前期の幼児理解の理論と方法の授業ノート、教科書を読み直しておくこと。					
7	保育者の専門性③豊かな文化や自然との出会いをつなぐ		保育所保育指針、幼稚園教育要領を一読しておくこと。					
8	保育者の専門性④ 保護者や家庭、地域、専門機関と力を合わせる		平松知子著『子どもが心のかっとうを超えるとき 発達する保育園 子ども編』、『大人だってわかってもらえて安心したい発達する保育園 大人編』を一読すること。					
9	保育者の専門性⑤ 学び合う保育者集団と生涯発達		実習時の保育者の姿を思い起こし、チームとして連携する姿について発言できるよう準備しておくこと。					
10	保育の実践と省察① 対話的保育カリキュラムについて考える		加藤繁美著『0歳～6歳 心の育ちと対話する保育の本』学研、『対話的保育カリキュラム<上>理論と構造』を一読すること。					
11	保育の実践と省察② 対話的保育カリキュラムについて考える		加藤繁美著『0歳～6歳 心の育ちと対話する保育の本』学研、『対話的保育カリキュラム<下>実践の展開』を一読すること。					
12	さまざまな保育実践と記録の重要性		実習記録を見直し、そこでの気づきを分かち合えるよう、再度、見直しておくこと。					
13	現代における保育の課題 多様な保育ニーズと教育の本質		新聞、ニュース等を通じ問題意識を持ち、授業に臨む。					
14	保育という教育と求められる対話能力について		保育者に求められる対話能力についての自分なりの意見を用意し、授業に臨むこと。					
15	保育者の専門的成長：倉橋惣三の保育思想に学ぶ		倉橋惣三著『育ての心』を一読すること。					
<b>【購入テキスト】</b>								
<b>【参考書・資料】</b>								
<p>汐見稔幸・大豆生田啓友編『保育者論』ミネルヴァ書房、2,200円  その他、必要に応じ、適宜、配布・紹介する。</p>								
<b>【成績基準】</b>								
定期試験			中間試験	授業内提出物等	ホームワーク提出物等	授業への取組姿勢	その他(具体的に)	
筆記試験	レポート	実技試験						
60%	%	%	%	20%	%	20%	%	

授業科目名 保育原理		授業担当者 寺脇 誠一郎		授業形態 講義	単位数 2単位	配当学年 1年	学期 後期	
<b>【授業の概要】</b> 保育の基本原則を諸外国の保育の歴史や思想家を通して学び、今かかえる保育課題について考察する。								
<b>【到達目標】</b>	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー		①子ども(胎児・乳児・幼児)に関わる保育・教育・環境に興味を持ち、保育士の専門性について広く学び、より豊かな研究・実践を追究し理解を深める。 ②幼児(保育・教育)について世界の歴史を顧み、今日ある現況を考察し、未来の人類の平和な世界の礎になるための保育者としての資格を培う。				
	生きる力	B	D P II - 2					
	感じる力	C	D P III - 2					
	表現する力	C	D P II - 3					
			D P I - 1					
			D P II - 3					
<b>【授業計画】</b>				授業の内容		授業時間外の学習		
1	保育者になるということ			事前に教科書(p1~18)を読む。				
2	保育者の職務と倫理							
3	保育士の制度的位置づけ			事前に教科書(p19~45)を読む。				
4	保育者の仕事と役割							
5	保育者の専門性① 一人一人の子どもの思いや育ちを理解する			事前に教科書(p47~67)を読む。				
6	保育者の専門性② 子どもと共に心と体を動かす			事前に教科書(p69~92)を読む。				
7	保育者の専門性③ 豊かな文化や自然との出会いをつなぐ			事前に教科書(p93~115)を読む。				
8	保育者の専門性④ 保護者や家庭、地域、専門機関と力を合わせる			事前に教科書(p117~139)を読む。				
9	保育者の専門性⑤ 学び合う保育者と生涯発達			事前に教科書(p141~170)を読む。				
10	保育の実践と省察① 対話的保育カリキュラムについて考える			配布資料を読み、積極的に質問やグループディスカッションを行うこと。				
11	保育の実践と省察② 対話的保育カリキュラムについて考える							
12	さまざまな保育実践と記録の重要性			事前に教科書(p180~192)を読む。				
13	現代における保育の課題							
14	保育者の専門職的成長			事前に教科書(p171~191)を読む。				
15	社会の変化と保育者に求められるもの							
<b>【購入テキスト】</b>	汐見稔幸・大豆生田啓友編『保育者論』ミネルヴァ書房、2,200円							
<b>【参考書・資料】</b>	平松知子著『子どもが心のかつとうを超えるとき 発達する保育園 子ども編』ひとなる書房、2012年発行、1,680円 平松知子著『大人だってわかってもらえて安心したい 発達する保育園 大人編』ひとなる書房、2012年発行、1,680円 その他、必要に応じて適宜配布、紹介する。							
<b>【成績基準】</b>	定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
	筆記試験	レポート	実技試験					
	60%	%	%	%	20%	%	20%	%

授業科目名 社会福祉	授業担当者 木下 隆志	授業形態 講義	単位数 2単位	配当学年 1年	学期 前期				
<b>【授業の概要】</b> 目的：現代社会と社会福祉の歴史、制度を学ぶ。 少子高齢化は社会にどのような影響を与えているのかを理解する。また、障がいのある子どもの進路や就職はどのように保障されているのかを理解する。虐待や DV から守るために、法律や制度はどこまで守ることができるのか、その法律や制度を使って、どこまで援助できるのかを理解する									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー	この授業では左記のポリシーを意識した授業を展開する。 ・社会福祉とは何かを理解できる。 ・保育者として多様な生き方考え方を理解する。 ・ノーマライゼーション・インクルージョンを説明できる。 ・信頼関係を構築するため面接技術を習得する。 ・自分の特性を理解する方法を知る。						
	感じる力	B				DPⅢ-1			
	表現する力	C				DPⅠ-1			
DPⅡ-3									
【授業計画】			授業の内容	授業時間外の学習					
1	現代社会と社会福祉：これまでの生活問題と新しい生活課題を理解		生活課題を福祉の視点を学ぶ。p1~12 予習						
2	保育と社会福祉：少子化と保育、待機児童等の現状を理解		保育者の役割を学ぶ。p13~23 予習 ・ワークシート提出1						
3	社会福祉の歴史：日本と欧米の歴史から社会福祉の形成過程を理解		歴史から慈善と福祉の違いを学ぶ。p23~34 予習						
4	社会福祉の法律と行政組織：福祉六法と行政組織・機関を理解		福祉支援の根拠となる法律と行政の役割を学ぶ。p35~50 予習・ワークシート提出2						
5	社会福祉の民間活動：さまざまな組織が担い手となることを理解		・中間テスト1。NPO や町内会のあり方を学ぶ p 51~60 予習						
6	社会福祉従事者：専門職の倫理綱領や保育の専門性を理解		保育者および、保育者以外の従事者の役割を学ぶ p61~70 予習						
7	社会福祉における相談援助：相談援助プロセスを理解		ケースワークの基本を学ぶ。 p 71~80 予習・ワークシート提出3						
8	社会福祉における権利擁護：子ども、障がい児者の権利について理解		選択や自己決定を代弁する方法を学ぶ。 p 81~92 予習						
9	生活保護：生活基盤となる生活費の困窮状況とその背景を理解		生活保護の仕組みと原理を理解する。・ワークシート提出4（面接必携の本持参）						
10	児童家庭福祉：虐待やDVなど、子どもを取り巻く社会と支援を理解		・中間テスト2 各論に入る。子どもの福祉と制度を理解する p 105~114 予習						
11	高齢者福祉：認知症や介護にまつわる生活支援を理解		地域包括ケアの意味を理解する p 115~122 予習・ワークシート提出5						
12	障害者福祉：障害児・者の特性と生活支援を理解		ノーマライゼーション・インクルージョンを理解する p 123~134 予習						
13	地域福祉：施設から地域への意味について理解		地域で展開するマクロ SW を学ぶ。 p 135~144 予習・ワークシート提出6						
14	保健医療福祉：医療と福祉の連携について理解		保険・医療と関係する福祉の意味を理解する。 p 145~154 予習						
15	保健・医療・福祉・教育の連携：ライフサイクルに沿った支援を理解		社会福祉の今後の課題を検討する p 155~161 予習						
【購入テキスト】		①生活保護の面接必携（2版） 道中隆 ミネルヴァ書房（2年生の児童家庭福祉でも使用する） ②社会福祉の制度と課題 井村圭壮 編著 学文社							
【参考書・資料】		事例で学ぶスーパービジョン 吉弘淳一、横井一之 文京出版（建帛社）							
【成績基準】		定期試験		中間試験	授業内	ホームワーク	授業への	その他	
		筆記試験	レポート	実技試験	提出物等	提出物等	取組姿勢	(具体的に)	
		50%	%	%	20%	%	20%	10%	%

授業科目名		授業担当者		授業形態	単位数	配当学年	学期				
児童家庭福祉		木下 隆志		講義	2単位	1年	後期				
<b>【授業の概要】</b>											
<p>児童福祉論とは、子どもの生存と発達の権利保障について理解することである。子どもの権利保障を理解する意味は何か。子どもは、生活の中で、なんらかの行きにくさや心の叫びを大人や社会に表出することは難しい。自らの意思を主張し、自分たちの権利を守る力が乏しく弱い。その子どもの諸権利や主体性の尊重について、保護者とともに、国、地方自治体、社会全体が子どもの生活と発達を守る文化を形成していく必要がある。社会の中で子どもが自己実現に向かって、自分の生き方を信じていることができることが児童福祉論の権利保障である。授業では、児童福祉の理念に基づき、児童福祉の目的とその方法、法令等に基づいて作成される制度の理解、その制度の運用ルールを示したものの、及びそのルールに基づいた具体的実践行為の体系を学ぶ内容となる。</p>											
<b>【到達目標】</b>	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		<p>将来の夢を抱くことを保障される子どもに対し、その道を閉ざすことがあってはならない。しかし、子どもから意見を発することは稀である。それらの事情を察知する力をつけ、専門職として、代弁することが求められる。この授業では左記のポリシーを意識した授業を展開する。</p>						
	感じる力	A	D P I - 1								
			D P I - 2								
	表現する力	C	D P I - 1								
D P II - 3											
<b>【授業計画】</b>				授業の内容				授業時間外の学習			
1	現代社会における児童家庭福祉の理念				児童の主体性が確立する概念を学ぶ。P3-p15						
2	児童家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向				ワークシート1 欧米と日本の歴史を学ぶ P16-p25						
3	児童家庭福祉と保育				児童家庭福祉と保育の関係を学ぶ P26-p35						
4	児童の人権擁護と児童家庭福祉				子どもの権利について学ぶ P36-p45						
5	児童家庭福祉の制度と実施体制				ミニテスト1 制度の理解 p46-p55						
6	児童家庭福祉の施設と専門職				施設類型と専門職の理解 p56-p75						
7	少子化と子育て支援サービス				ワークシート2 少子高齢化を学ぶ p76-p85						
8	母子保健と児童の健全育成				母子保健と健全育成を学ぶ p86-p95						
9	多様な保育ニーズへの対応				保育ニーズを知る p97-p105						
10	児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス				子どもを取り巻く暴力を知る p106-p115						
11	社会的養護				ミニテスト2 社会的養護を学ぶ p116-p125						
12	障害のある児童への対応				ワークシート3 障がいのある子どもについて学ぶ p126-p135						
13	少年非行等への対応				非行等について学ぶ p136-p145						
14	次世代育成支援と児童家庭福祉の推進				次世代育成支援について知る p147-p155						
15	保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク				連携について学ぶ p156-p165						
<b>【購入テキスト】</b>		基本保育シリーズ3 児童家庭福祉 新保幸男、小林理 監修 中央法規									
<b>【参考書・資料】</b>											
<b>【成績基準】</b>		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)		
		筆記試験	レポート	実技試験							
		50%	%	%	20%	%	20%	10%	%		

授業科目名 教育心理学（保育の心理学Ⅰを含む）		授業担当者 山田 理恵子		授業形態 講義	単位数 2単位	配当学年 1年	学期 前期		
<b>【授業の概要】</b> 教育心理学に基づく子どものとらえ方を学び、発達を促す指導を考える。 発達・学習・人格の各理論および教育評価について学ぶ。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		保育・教育に必要な心理学的専門性を身につける。 心理学的な知見・問題のとらえ方・対処法を学ぶ。 対人援助職としてのコミュニケーションスキルの獲得。				
	生きる力	B	DPⅡ-2						
			DPⅢ-2						
	C		DPⅡ-1						
【授業計画】				授業の内容	授業時間外の学習				
1	乳幼児期の発達をふまえた保育・教育				資料を読んでおく。				
2	発達観、子ども観と保育観				第2～7回では、前回の授業内容に関する小テストを実施するので復習しておく。				
3	愛着関係の発達								
4	感情の発達と自我								
5	身体機能と運動機能の発達								
6	知覚と認知の発達								
7	言葉の発達と社会性				第8・9回では、検査結果に関するレポートを作成する。				
8	発達検査の実施と診断								
9	性格検査の実施と診断								
10	対人関係に問題を抱える子ども				事例に関するレポートを作成する。				
11	胎児期・新生児期の発達				第11～14回では、グループ討論をするので自分の考えをまとめておく。				
12	乳幼児期の発達								
13	学童期から青年期の発達								
14	成人期、老年期の発達								
15	まとめ				疑問点など質問を考えておく。				
【購入テキスト】		その都度、資料を配付する。							
【参考書・資料】		必要に応じて紹介する。							
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (グループ発表)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		%	%	%	%	50%	20%	%	30%

授業科目名 子どもの保健 I		授業担当者 楠木 紀子		授業形態 講義	単位数 2単位	配当学年 1年	学期 前期		
【授業の概要】 子どもの心身の健康と安全に関する基本的知識を学ぶ。また、子どもの生活や子どもを取り巻く家族・環境について理解する。体験学習を中心とした授業形態を取り入れ、より実践的に子どもの保育を考え行動できる人材を育成する。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		子どもや子どもを取り巻く多様な環境を理解し、色々な価値観や文化を受容し対応できる。 またグループワークを通し、お互いの意見を交換し、コミュニケーション能力を高める。				
	感じる力	A	D P I - 1						
			D P I - 2						
	表現する力	A	D P II - 1						
D P III - 1									
【授業計画】				授業の内容		授業時間外の学習			
1	子どもの健康と保健の意義			目次を確認し子どもの保健で学ぶ内容を確認する					
2	子どもの発育・発達			第1章子どもの発育を知ろうを読む					
3	運動機能の発達			教科書 P36 の課題 2 を実施する					
4	生理機能の発達			教科書 P51～52 のおさらいテストを実施する					
5	精神機能の発達			教科書 P37 の課題 3 を実施する					
6	子どもの栄養			教科書 P55～58 を読み、復習する					
7	子どもの生活環境			教科書 P119 の例 5 を見て注意する点をレポートに書く					
8	子どもの基本的生活習慣			教科書 P72～73 のおさらいテストを実施する					
9	子どもの事故			教科書 P119 の例 5 より危険防止を考える					
10	子どもの感染症の特徴			教科書 P103 の課題 7 を実施し感想を書く					
11	子どもの予防接種			教科書 P96～97 を読み、復習する					
12	子どもの発達障害			教科書 P154～157 を読み、復習する					
13	子どもの心と健康			教科書 P113～115 を読み、復習する					
14	家族への関わり方			授業で実施した内容のプリントを復習する					
15	母子保健対策			授業で実施した内容のプリントを復習する					
【購入テキスト】		榎原 洋一 子どもの保健 演習ノート (改訂第3版)							
【参考書・資料】		その都度提示する							
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内提出物等	ホームワーク提出物等	授業への取組姿勢	その他 (具体的に)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		60%	%	%					

授業科目名 子どもの保健Ⅱ		授業担当者 楠木 紀子	授業形態 講義	単位数 2単位	配当学年 1年	学期 後期			
<b>【授業の概要】</b> 子どもの成長・発達各段階について理解を深めながら、保育現場で実践できる保健に関する知識及び基礎的技術の習得を目指す。また、保育環境や衛生・安全管理についても理解を深めるとともに、子どもの健康状態を観察・評価し、病気や事故・けがの対応や予防が速やかに実践できる知識・技術を習得する。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		子どもの疾患や症状を知ること、それに対応できる能力を身につける。 また親の不安に対する傾聴や受容の方法を学び、援助できる力を身につける。				
	感じる力	A	D P I - 1						
			D P I - 2						
	表現する力	A	D P II - 1						
D P III - 1									
【授業計画】			授業の内容	授業時間外の学習					
1	小児保健の意義・目的 保育における保健活動			教科書 P4～7 を読み、復習する					
2	子どもの身体計測			教科書 P22 課題 5 の 2) のカウブ指数を実施する					
3	子どもの発達評価			教科書 P22 課題 6 の 2) の成長曲線を実施する					
4	感染経路と感染対策			教科書 P103 の課題 6 の 1) を実施する					
5	子どもの異常症状（発熱・熱性けいれん・熱中症・脱水）			教科書 P102 の課題 2 の 1) を実施する					
6	子どもの異常症状（鼻水・鼻閉・鼻出血・呼吸・咳・喘息）			教科書 P102 の課題 2 の 2) を実施する					
7	子どもの異常症状（腹痛・下痢・嘔吐・便秘）			教科書 P102 の課題 2 の 3) を実施する					
8	子どもの異常症状（てんかん・けいれん）			教科書 P102 の課題 2 の 8) を実施する					
9	子どもの異常症状（外傷・打撲・脱臼・肘内障・熱傷）			教科書 P128～130 を読み、復習する					
10	子どもの異常症状（アレルギー・皮膚症状）			教科書 P102 の課題 2 の 7) を実施する					
11	子どもの異常症状（心肺蘇生法・気道内異物除去・異物の誤飲）			教科書 P126～128 を読み、復習する					
12	学校感染症			教科書 P103 の課題 4 を実施する					
13	予防接種			教科書 P103 の課題 5 を実施する					
14	障害児の理解と保育（発達障害）			教科書 P142～154 を読み、復習する					
15	薬の知識と飲ませ方・点眼の方法・点耳の方法			教科書 P98～99 を読み、復習する					
【購入テキスト】		榑原 洋一 子どもの保健 演習ノート（改訂第3版）							
【参考書・資料】		その都度提示する							
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		60%	%	%	%	10%	10%	20%	%

授業科目名		授業担当者		授業形態	単位数	配当学年	学期		
子どもの保健Ⅲ		竹内 佳寿子		演習	1 単位	1 年	前期		
<b>【授業の概要】</b>									
子どもの健康・保健並びに保育に関する既習の知識を統合し、子どもの保健活動を実践するための知識・技術・態度を習得する。現在の社会において求められている幼稚園や保育所での保健活動計画に基づく保健活動（疾病予防、健康増進、安全・衛生に配慮した環境整備、救急時の対応、心の問題、地域活動）などについて学ぶ。									
<b>【到達目標】</b>	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		子どもの健康に関心を持つことができ、健康を保持・増進するために教育的なかかわりを考えることができる。保育の基本的な援助について根拠を理解し正しく行える。疾病や外傷などへの理解や対処方法が理解でき、自己の健康管理が正しい方法で行える。				
	生きる力	B	DPⅡ-2						
			DPⅢ-2						
	感じる力	A	DPⅠ-1						
			DPⅠ-2						
	表現する力	C	DPⅠ-1						
			DPⅡ-3						
<b>【授業計画】</b>				授業の内容		授業時間外の学習			
1	保育における保健活動について学びます。まずは他者に関心を持つことからクラスメンバーの他己紹介から始めます。			クラスのメンバーの良いところをたくさんみつけておいてください。					
2	子どもの健康状態の観察、基本的な接し方、保育者自身の手洗いを実施し、試薬を用いてチェックします。			教科書 24～33p、72～73、84～86p、98p を事前に読んでおく。					
3	子どもの身体計測を実施し、発育の評価・支援の検討などを考えます。赤ちゃん人形を使用して計測します。			教科書 24～33p を事前に読んでおく。					
4	子どもの精神・運動機能の発達の観察、その留意点と評価。子どもの成長の様子をDVDで視聴し、具体的に理解します。			教科書 79～83p を事前に読んでおく。					
5	乳幼児の養護 ①排泄の習慣、衣服の選定・着脱 移動の方法。赤ちゃん人形の抱っこ、おむつ交換、衣類の着脱を演習します。			教科書 77～79p を事前に読んでおく。					
6	乳幼児の養護 ②栄養（母乳・人工乳、調乳・授乳）歯磨き ミルクを調乳し、授乳の演習をします。			教科書 74～76p、88～94p を事前に読んでおく。					
7	乳幼児の養護 ③身体の清潔、沐浴の演習。実際に赤ちゃん人形を使用し、ベビーバスでの沐浴を見学します。			教科書 94～97p を事前に読んでおく。					
8	乳幼児の保健指導と保育環境整備 保健活動計画の立案 保健活動計画の重要性を理解した上で計画立案に取り掛かります。			現代の子どもの保健環境に着目し、新聞やテレビなどのメディアから情報収集し、グループの課題に役立てる。					
9	保健活動計画の発表準備 グループワーク（自分たちが最も取り上げたい内容に絞る。）								
10	保健活動計画の発表 グループで発表するので模造紙への記録者、発表者、他グループへの質問者などの役割を果たしましょう。			それぞれの役割を事前に考えた上で、当日役割を果たせるよう準備をしておく。					
11	救急時の看護：巻法（温める・冷やす）、与薬（薬の種類と園での対応） 事故時の応急処置：止血法 包帯法 運搬法を演習。			教科書 147～178p を事前に読んでおく。					
12	発達障害について理解し、適切な支援とは何か考える。			資料を事前に読んでおく。					
13	一次救命救急：気道の異物除去法 心肺蘇生法をDVDで学習し、乳児の異物除去法・心肺蘇生法を演習する。AEDも使用します（解説まで）。			教科書 133～146p を事前に読んでおく。					
14	実技試験課題の手順書の作成。手順の留意点や根拠も書きこみます。			次の実技試験までに充分に書きこみ、実技の自己学習をしておく。提出。					
15	まとめ 実技試験3人で1グループになり、受験者、援助者、チェックマンの役割を果たすことにより、連携や互助の体験学習をします。			実技の課題に向けて予習をしておくこと。					
<b>【購入テキスト】</b>		佐藤益子著 『子どもの保健Ⅱ』 ななみ書房出版、2012年発行、2310円							
<b>【参考書・資料】</b>									
<b>【成績基準】</b>		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
	筆記試験	レポート	実技試験						
	40%	%	40%	%	%	10%	10%	%	

授業科目名 子どもの食と栄養 I		授業担当者 加納 章		授業形態 演習	単位数 1 単位	配当学年 1 年	学期 前期		
【授業の概要】 子どもたちを取り巻く食環境の現状や課題を知り、その中で保育に携わる者として必要なスキルを身に着ける。 保育に携わる者として、常に問題意識を持ち、子どもの最善の利益を追求し実現するための、実践的な計画・省察ができるようになる。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		社会的な必要性を理解し、論理的に思考し判断する能力を身につける。 自身の考えを持った上で、組織や社会の一員として共同していく能力を持つ。				
	生きる力	A	DPⅢ-3						
	表現する力	C	DPⅠ-1						
DPⅡ-3									
【授業計画】				授業の内容	授業時間外の学習				
1	オリエンテーション				今期の流れについて把握する				
2	子どもを取り巻く食環境の現状とその課題				自分自身の幼少期の食生活を振り返る				
3	いのちの育ちを支える保育者としての役割について				保育者としての必要なものを考える				
4	食と文化				国内外の食文化を意識して見る				
5	食と人間関係				人間関係を構築する過程において食の大切さに気付く				
6	食育について				食育がなぜ必要なのか考える				
7	幼児のクッキング活動について				自分自身の幼少期の経験を振り返る				
8	幼児が経験する調理及び道具について				身の回りの基本的な調理器具についてその特徴を知り使用する				
9	発達について				食に関する発達について知る				
10	偏食など好き嫌いに対する援助について				好き嫌いについてその理由を考える				
11	配慮が必要な子どもに対する援助について				どのような心持でかかわることが大切かを考える				
12	食物アレルギーについて				食物アレルギーの仕組みとその危険性について知る				
13	体調不良の子どもに対する援助について				どのような配慮がなされてきたのか、自身の経験を振り返る				
14	マナーとしつけについて（保育と育児の違い）				箸を持参する				
15	食に関する情報収集について				電子機器等を駆使して情報収集してみる				
【購入テキスト】									
【参考書・資料】		授業中に適宜紹介する。							
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内提出物等	ホームワーク提出物等	授業への取組姿勢	その他（具体的に）
		筆記試験	レポート	実技試験					
		60%	%	%	20%	10%	%	10%	%

授業科目名 子どもの食と栄養Ⅱ		授業担当者 加納 章		授業形態 演習	単位数 1単位	配当学年 1年	学期 後期		
<b>【授業の概要】</b> 子どもたちを取り巻く食環境の現状や課題を知り、その中で保育に携わる者として必要なスキルを身に着ける。 栄養の基礎、国の取り組みなどについて理解をし、保育に携わる者として、常に問題意識を持ち、子どもの最善の利益を追求し実現するための計画・省察ができるようになる。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		社会的な必要性を理解し、論理的に思考し判断する能力を身につける。 自身の考えを持った上で、組織や社会の一員として共同していく能力を持つ。				
	生きる力	C	DPⅡ-1						
	表現する力	C	DPⅠ-1						
DPⅡ-3									
【授業計画】				授業の内容	授業時間外の学習				
1	オリエンテーション				今期の流れについて把握する				
2	食物アレルギーの配慮が必要な子どもに対する援助について				実習の際に経験した配慮を振り返る				
3	行事食について				自身が経験した行事食について調べる				
4	食育に関する保育評価				自身の立てたプログラムの評価をする				
5	食に関するリスク管理				身の回りにどのようなリスクが潜んでいるか意識して見る				
6	行政が食を通して幼稚園保育園に求めていること				国の取り組みとして何を求めているのかを知る				
7	食事摂取基準について				摂取基準について調べる				
8	栄養の基礎知識（五大栄養素の種類と機能）				栄養素の役割を理解し、実際の生活の中で意識して食事をする				
9	栄養と消化・吸収・代謝に関するメカニズム				各々のメカニズムを理解し、子供にわかるような言い換えてみる				
10	離乳食について				自身の乳児期の離乳食の様子を調べる				
11	未満児の食と発達				自身の乳幼児期の食について振り返る				
12	幼児期の食と発達				自身の乳幼児期の食について振り返る				
13	職員間の連携				コミュニケーションの必要性について意識してかかわる				
14	大人の食生活が子どもを守る				どのように食に関わり子どもを守るかを考える				
15	まとめ総括				これ学んできたことを通して保育者として何が必要か考える				
【購入テキスト】									
【参考書・資料】		授業中に適宜紹介する。							
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		60%	%	%	20%	10%	%	10%	%

授業科目名 保育内容総論		授業担当者 大谷 彰子		授業形態 演習	単位数 1単位	配当学年 1年	学期 前期		
【授業の概要】 乳幼児教育の基本と保育内容を理解し、子どもの育ちを支える保育者の役割について考察する。『保育所保育指針』の読み方を理解し、5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）の学びと共に、保育の全体構造を理解し、子ども理解や保育方法について学ぶ。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		保育所保育指針を理解し説明することができる。 保育内容の歴史の変遷について学び理解できる。				
	生きる力	C	DPⅡ-1		子どもの発達特性等を積極的に学び、観察や記録の観点を習得できる。				
	感じる力	B	DPⅢ-1		保育者として求められる姿について、自ら考える態度を持つ。 保育場面を想定し、保育内容を考え実践する力を養う。				
【授業計画】				授業の内容		授業時間外の学習			
1	保育とは								
2	保育所・幼稚園・認定こども園の役割と法的根拠を学ぶ			授業で出された課題を行う。					
3	保育所保育の役割と流れを学ぶ			保育所のホームページを検索し、資料を持参すること。					
4	子どもを巡る現状と保育の動向を学ぶ			授業で出された課題を行う。					
5	保育の内容と目標を保育所保育指針から学ぶ			観察実習での子どもの様子をまとめてくること。					
6	乳幼児の発達と保育士の援助について学ぶ			観察実習での子どもの様子をまとめてくること。					
7	乳幼児の発達（子どもの心の育ち）について学ぶ			授業で出された課題を行う。					
8	5領域の保育内容について保育所保育指針から学ぶ			授業で出された課題を行う。					
9	遊びによる総合的保育の展開を理解する①			教科書を熟読して授業に参加すること。					
10	遊びによる総合的保育の展開を理解する②			授業で出された課題を行う。					
11	保育における子ども理解と記録について学ぶ			教科書を熟読して授業に参加すること。					
12	保育の形態と保育者の配慮、視点について学ぶ			教科書を熟読して授業に参加すること。					
13	保育内容の歴史の変遷について学ぶ			教科書を熟読して授業に参加すること。					
14	環境を通して行う保育について学ぶ			観察実習での保育所の保育室の環境を図に表してくること。					
15	保育者に求められる姿			教科書を熟読して授業に参加すること。					
【購入テキスト】		石川昭義 松川恵子編集「基本保育シリーズ 保育内容総論⑮」中央法規 2160円							
【参考書・資料】									
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内提出物等	ホームワーク提出物等	授業への取組姿勢	その他（具体的に）
		筆記試験	レポート	実技試験					
		50%	%	%	%	20%	20%	10%	%

授業科目名		授業担当者		授業形態	単位数	配当学年	学期		
保育内容演習・環境		岸本 朝子		演習	1 単位	1 年	後期		
<b>【授業の概要】</b> 子どもの成長は、基本的な生活や遊び、人とのかかわりなど子どもを取りまく環境が大きく影響している。しかし子どもを取りまく環境は年々多様化し変容している。本講義ではその環境の変化をふまえて、子どもの好奇心や探求心を育むための環境について学び、実際の保育現場における環境構成などの事例を通して、具体的な保育環境のイメージをもち、保育実践に役立つ技術の習得を目的とする。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー		・幼稚園教育要領の保育内容「環境」を理解し、実践との関連性を認識する。 ・子どもを取りまく環境と子どもの成長について学び、考える ・子どもを取りまく様々な環境に興味関心を持ち、幼児教育との関連性について考える					
	生きる力	C	DPⅡ-1						
	感じる力	B	DPⅢ-1						
	表現する力	C	DPⅠ-1 DPⅡ-3						
【授業計画】				授業の内容		授業時間外の学習			
1	オリエンテーション、保育内容「環境」とは			身の回りの物に目を向け、自らの生活と環境について考えておく。					
2	栽培			授業内容の復習					
3	自然環境としての動植物			栽培の経過観察と授業内容の復習					
4	物的環境としての園具・遊具・素材			栽培の経過観察とテキスト6章の復習					
5	好奇心・探求心を育てる保育			栽培の経過観察と授業内容の復習					
6	好奇心・探求心を育てる保育Ⅱ			栽培の経過観察と授業内容の復習					
7	思考力の芽生えをはぐくむ			栽培の経過観察と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の理解					
8	秋（9、10、11月）の保育の生活と活動			栽培の経過観察 授業内容の復習と研究発表の準備					
9	秋（9、10、11月）の保育の生活と活動 発表			栽培の経過観察 研究発表の振り返り					
10	冬（12、1、2月）の保育の生活と活動			栽培の経過観察と授業内容の復習と研究発表の準備					
11	冬（12、1、2月）の保育の生活と活動 発表			栽培の経過観察 研究発表の振り返り					
12	春（3、4、5月）の保育の生活と活動			栽培の経過観察と授業内容の復習と研究発表の準備					
13	春（3、4、5月）の保育の生活と活動 発表			栽培の経過観察 研究発表の振り返り					
14	夏（6、7、8月）の保育の生活と活動			栽培の経過観察と授業内容の復習と研究発表の準備					
15	夏（6、7、8月）の保育の生活と活動 発表			栽培の経過観察 研究発表の振り返り					
【購入テキスト】		・小田豊、湯川秀樹編著「新 保育ライブラリ 保育内容 環境」、北大路書房、2015年							
【参考書・資料】		・奥井智久、芦田宏編著「新 子どもと環境」、三晃書房、2010年							
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		60%	%	%					

授業科目名 保育内容演習 言葉		授業担当者 大谷 彰子		授業形態 演習	単位数 1 単位	配当学年 1 年	学期 後期		
<b>【授業の概要】</b> 子どもの言葉に関する発達について理解し、子どもの育ちを支える保育者の役割について考察する。児童文化財に触れ、良いものを選択する目を持ち、子どもに与える意味や重要性を理解する。保育現場で活用できる手作り教材の作成をおこない実践力を養う。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		乳幼児の言語獲得の発達過程と児童文化財を理解し説明する。				
	生きる力	C	DPⅡ-1		言語発達のための保育者の援助やその重要性について理解する				
	感じる力	C	DPⅡ-3		表現活動に関わる教材の作成、活用、具体的展開について、自ら考える態度を持つ。				
	表現する力	A	DPⅡ-1	DPⅢ-1	保育場面を想定し、乳幼児の言語発達が促されるような保育内容を考え実践する力を養う。				
【授業計画】				授業の内容	授業時間外の学習				
1	子どもに伝わる話し方				自己紹介の手作り教材の作成を行う。				
2	優れた絵本と子どもの理解力の発達				授業で出された課題を行う。				
3	絵本の魅力とその解釈				年齢ごとの発達に合わせた絵本を選定し持参する。				
4	乳幼児の言葉の獲得と援助				実習での 0～1 歳児の言葉についてまとめ、教科書を熟読しておく。				
5	保育所保育指針における領域「言葉」の保育の目標と保育者の援助				実習での 2～5 歳児の言葉についてまとめ、教科書を熟読しておく。				
6	手作り教材① 子どもを育てる言葉の文化財				手作り教材を作成し発表できるよう十分準備を行う。				
7	保育環境と言葉の発達（体験・環境を通して育つ言葉）				手作り教材を作成し発表できるよう十分準備を行う。				
8	手作り教材② 発表 パネルシアター、紙芝居、ペープサートなど				手作り教材を作成し発表できるよう十分準備を行う。				
9	言語発達と保育者に必要な援助の視点と配慮				実習における年齢ごとの言葉の発達と保育者の援助についてまとめておく。				
10	記録と子どもの言葉理解				授業で出された課題を行う。				
11	幼児の内面を言葉として表現する過程とその支援				授業で出された課題を行う。				
12	子ども理解の方法としてのラーニングストーリー				授業で出された課題を行う。				
13	言葉が育つ土壌、遊びの中から生まれる言葉				授業で出された課題を行う。				
14	言葉をはぐくむ保育活動の実践				授業で出された課題を行う。				
15	まとめ				授業で出された課題を行う。				
【購入テキスト】		適宜資料を配布する。							
【参考書・資料】									
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (実技)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		50%	%	%	%	%	10%	10%	30%

授業科目名 保育内容演習・表現Ⅰ			授業担当者 横川 眞美		授業形態 演習	単位数 1単位	配当学年 1年	学期 前期	
【授業の概要】 幼児段階の音感教育の基本である歌う活動の大切さを中心に学び、身近な音楽の様々な要素を取り出しながら、自らの感覚を養い、幼児の成長に即した創造的表現の実習を行う。教材にはコールユーブンゲン、コンコーネ、生活のうた、文部省唱歌、童謡、日本の名歌、世界の名歌を用いる。 最も身近な音である声そのものの表現力を高める。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		発声の手順、基本を知る事で、自らが持つ能力に気付き、努力することによってのみ高められ、幼児に向かう保育者の目を育てる意義を発見する。 心のままに発せられる声そのものの表現力を育てる。				
	生きる力		DPⅢ-3						
	感じる力		DPⅢ-1						
	表現する力		DPI-3						
【授業計画】			授業の内容			授業時間外の学習			
1	声のしくみを理解し、発声における呼吸法の基本と方法の実践を行う。			呼吸の基礎練習を行う。					
2	発声における発語法の基本と方法の実践を行う。			発語の基礎練習を行う。					
3	母音と子音の響きの違いを認識し、口腔内の動きのトレーニングを行う。			早口言葉の練習を行う。					
4	長音階、長調を理解し、正しい音程で表現する事ができる。			長音階が歌えるようになる。					
5	短音階、短調を理解し、正しい音程で表現する事ができる。			短音階が歌えるようになる。					
6	暗譜の経験を通し、音群を捉え、集中力、記憶力を高める。			速さに関する表現の記号を覚える。					
7	読譜の経験を通し、音楽の表現の一つである強弱法を学ぶ。			音符の種類を理解し覚える。					
8	発音、音程の中間のまとめを行う。			正確に歌う練習をする。					
9	ことばの組み立てを理解し、ニュアンスの違いを表現できる。			ニュアンスに関する表現の記号を理解し覚える。					
10	メロディの組み立てを分析し、上行、下行、同音、順列、跳躍などの動きの違いを認識し、異なる表現ができる。			楽譜を見ながら歌えるようになる。					
11	模擬メロディの活動を通してフレーズを認識し、記憶力を高める。			模倣メロディを準備する。					
12	創作メロディの活動を通して、構築を理解し、創造力を高める。			モチーフを考えておく。					
13	歌に合わせて複リズム、補足リズムを打てるようになる。			ステップをしながら歌えるようになる。					
14	弾き歌いの訓練Ⅰ・Ⅱ			主要3和音での簡易伴奏を覚える。					
15	総合演習を行う。			動きをつけたアカペラ歌唱を行う。					
【購入テキスト】		歌唱の基礎 小学校・幼稚園課程・保育士養成課程 圭分社							
【参考書・資料】		幼児の音楽教育—音楽的表現の指導— 音楽教育研究会							
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内提出物等	ホームワーク提出物等	授業への取組姿勢	その他(具体的に)
	筆記試験	レポート	実技試験						
	20%	%	%	60%					

授業科目名 保育内容演習・表現Ⅱ		授業担当者 西條 喜博		授業形態 演習	単位数 1単位	配当学年 1年	学期 前期		
<b>【授業の概要】</b> 保育における身体表現の基本的な考え方を学び、見たこと、考えたこと、感じたことを動きで表現するための色々な活動を実際に体験しながら習得する。 伝承された色々な手遊びや歌遊びやリズムダンスのおもしろさを知り、さらに、こどもの発想を考えた動きを考案するなど発展させることを学習する。 グループで作品を作り上げる演習では、グループの中で自分の思いや考え方を伝えながら各自が表現の方法やコミュニケーションの取り方を学習する。ーCA									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー		・乳幼児期のリズム運動の重要性について理解ができる。 ・様々な課題に対して個性を活かし、柔軟な発想ができる。 ・様々な表現方法に対して関心をもち、積極的に身体表現をすることができる。 ・感性豊かな創造力やリズム感を身に付け表現する。					
	感じる力	C	DPⅡ-3						
	表現する力	A	DPⅡ-1 DPⅢ-1						
【授業計画】				授業の内容	授業時間外の学習				
1	オリエンテーション 保育内容「表現」について			領域「表現」のねらいを読んでおく。また、毎日ストレッチ等の身体活動を実施し授業での活動に向けて体力をつけておく。					
2	リズム遊び ①								
3	リズム遊び ②								
4	基本ステップ ①			幼児の発達段階を理解し、動作も調べておく。					
5	基本ステップ ②								
6	遊びの歌 ①			伝承的、郷土的な遊び(手遊び、わらべ歌)などを調べておく。					
7	遊びの歌 ②								
8	表現遊び ①			様々な表現方法(遊び)を実施する際にこどもが楽しめる身近な事象を調べておく。					
9	表現遊び ②								
10	フォークダンス ①			フォークダンスを実践し、踊りの楽しさを知る。					
11	フォークダンス ②			相手を変えながら、踊りの楽しさを実践していく。					
12	リズムダンス創作 ①			幼児向きの曲を選択し、こどもの興味やこども自身の発想による動き(踊り)を取り入れた動きを工夫し、練習しておく。					
13	リズムダンス創作 ②								
14	リズムダンス創作の発表会								
15	鑑賞会・まとめ			前期の授業内容をノートにまとめておく。					
【購入テキスト】		必要に応じて資料を配布する。							
【参考書・資料】		保育所保育指針、幼稚園教育要領、こどものため動きの表現							
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		%	%	%	%	20%	%	50%	実践発表 30%

授業科目名 保育内容演習・表現Ⅲ		授業担当者 西條 喜博		授業形態 演習	単位数 1単位	配当学年 1年	学期 後期		
<b>【授業の概要】</b>									
<p>歌、音楽、身体の動き、様々な表現の手段を用いて、各自が豊かな感性や創造力を養い、表現力を豊かにするための方法を学習する。特に、本授業では、幼児の発達に応じた身体表現の方法や内容を理解し、指導方法を学習する。</p> <p>グループで創作ダンスの作品を作り上げていく演習で、こどものイメージや動きを活かした発表会作品としてまとめることを学習し、実践的な指導力を習得する。</p>									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の活動や教材研究により、幼児の発達段階に応じた様々な身体表現の理解ができる。</li> <li>・様々な表現をする手段に応じて、感性豊かな表現方法について考察することができる。</li> <li>・こどものイメージや動きを想定したより良い身体表現が実践でき、指導能力を養う。</li> </ul>				
	生きる力	A	DPⅢ-3						
	表現する力	B	DPI-3						
<b>【授業計画】</b>				授業の内容		授業時間外の学習			
1	オリエンテーション・保育の基本と幼児期の教育の重要性について 模倣表現			授業に向けて、毎日ストレッチ等の身体活動を実施しておく。 こどもが自発的に表現できるように身近な事象を調べておく。					
2	表現遊び								
3	身体表現								
4	様々なステップを使用したダンス ①			各自考案したステップを練習しておく。					
5	様々なステップを使用したダンス ②								
6	様々なステップを使用したダンス ③（色々な手具をもって）			題材に合った手具を調べておく。					
7	日常保育のためのミニミュージカル（物語あり） ①			こどもが歌いながら動く（踊る）ことを考えて、まとまりのあるダンスの構成を考案しておく。					
8	日常保育のためのミニミュージカル ②								
9	物語を題材にした表現 ①			物語の流れを構成し、こどものもつイメージや動きを考案した作品になるように創作しておく。 題材に合った手具も考えておく。					
10	物語を題材にした表現 ②								
11	創作ダンス ①			こどもの興味がわくようなストーリーを作成し、その題材に合った動きや曲づくりを工夫し、練習しておく。					
12	創作ダンス ②								
13	創作ダンス ③								
14	創作ダンス発表会			発表会の練習やその他必要な用具も準備をしておく。					
15	鑑賞会・まとめ			後期の授業内容をノートにまとめておく。					
<b>【購入テキスト】</b>		必要に応じて資料を配布する。							
<b>【参考書・資料】</b>		保育所保育指針、幼稚園教育要領、こどものための動きの表現							
<b>【成績基準】</b>		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		%	%	%	%	20%	%	50%	実践発表 30%

授業科目名 障害児保育 I		授業担当者 脇田 宣		授業形態 演習	単位数 1 単位	配当学年 1 年	学期 前期		
【授業の概要】 発達の違いや障害のある子どもに対する発達支援の実践的理解									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		1. 心身の障害の種類と医学的要因を知ると共に、発達の遅れや障害のある子どもとの関わりの留意点を理解する。 2. 児童福祉の基本原則である、発達支援の観点より発達の遅れや障害のある子どもに必要な保育環境を考える。 3. 児童の発達段階や障害特性に応じた個別保育計画を作成する。				
	生きる力	C	DPⅡ-1						
	感じる力	C	DPⅡ-3						
【授業計画】				授業の内容	授業時間外の学習				
1	障害児保育の基本原則				子どもの発達理解				
2	障害児保育の歴史				障害児保育の制度的変遷の理解				
3	障害児保育の社会的意義				子育て支援の視点から障害児保育の果たす役割を考える				
4	視覚障害の基本理解				視覚障害の種類や原因の理解				
5	視覚障害児の保育				障害特性に応じた保育実践を考える				
6	聴覚障害の基本理解				聴覚障害の種類や原因の理解				
7	聴覚障害児の保育				障害特性に応じた保育実践を考える				
8	運動機能障害の基本理解				運動機能障害の種類と要因の理解				
9	肢体不自由児の保育				障害特性に応じた保育実践を考える				
10	知的障害の基本理解				知的障害の定義と原因の理解				
11	知的障害児の保育				発達に合った保育実践を考える				
12	知的障害児の個別保育計画の作成				事例に関する資料の確認				
13	自閉症の基本理解①				自閉症スペクトラムとしての理解				
14	自閉症の基本理解②				自閉症の基本症状の理解				
15	自閉症児の保育				障害特性に応じた保育実践を考える				
【購入テキスト】									
【参考書・資料】 大場幸夫・柴崎正行 編『新・保育講座⑮障害児保育』ミネルヴァ書房									
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		50%	%	%					

授業科目名 障害児保育Ⅱ		授業担当者 脇田 宣		授業形態 演習	単位数 1単位	配当学年 1年	学期 後期		
【授業の概要】 発達の遅れや障害のある子どもに対する発達支援の実践的理解									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー		1. 障害児保育における親支援の意義を知る。 2. 発達の遅れや障害のある子どもを持つ親の抱える、具体的な悩みや不安を理解する。 3. 事例検討を通して、家庭との連携・協調の重要性を認識し、親への個別的な支援の在り方を考える。					
	生きる力	A	DPⅢ-3						
	感じる力	A	DPⅠ-1						
			DPⅠ-2						
表現する力	C	DPⅠ-1							
		DPⅡ-3							
【授業計画】				授業の内容		授業時間外の学習			
1	障害児保育の形態			障害幼児の保育と療育の比較					
2	分離保育と統合保育の比較			子どもにとってのノーマライゼーションを考える					
3	統合保育の課題を考える			統合保育の課題や問題点を考える					
4	統合保育の課題を考える（グループ討議）			前回まとめた内容を整理する					
5	障害の早期発見			乳幼児健康診査の役割を考える					
6	障害の早期対応			障害児保育における早期対応を考える					
7	障害幼児のための専門施設			児童発達支援センターについての理解					
8	発達の遅れのある子どもの専門施設における実践			児童発達支援の実践的理解					
9	知的障害幼児の困難事例を考える			事例に関する資料の確認					
10	児童虐待の問題を考える①			関連法令の歴史から児童虐待を考える					
11	児童虐待の問題を考える②			児童虐待の定義と種類の理解					
12	親の子育て相談①			障害幼児の子育て支援を考える					
13	親の子育て相談②			事例に関する資料の確認					
14	障害のある子どもの就学と将来の進路			就学支援の意義を考える					
15	親支援の困難事例を考える			事例に関する資料の確認					
【購入テキスト】		必要に応じて資料を配布							
【参考書・資料】									
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		50%	%	%	%	30%	%	20%	%

授業科目名 乳児保育 I		授業担当者 大江 まゆ子		授業形態 演習	単位数 1 単位	配当学年 1 年	学期 後期	
<b>【授業の概要】</b>								
乳児保育の理念と役割を理解し、乳児保育における保育士の役割を学ぶ。また、乳児保育の歴史的変遷を学び、乳児の保育内容や援助について理解し、保育方法を獲得する。								
<b>【到達目標】</b>	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の理念、歴史的変遷、役割について学び、乳児期の発達について理解し、説明することができる。</li> <li>・乳児期の重要性と乳児保育を必要とする保護者への理解を深め、積極的に乳児保育の在り方を考えることができる。</li> <li>・3歳未満児の発育・発達について知り、年齢に応じた保育内容を考えることができるようになる。</li> </ul>			
	生きる力	B	DPⅡ-2					
	感じる力	C	DPⅢ-2					
<b>【授業計画】</b>				授業の内容				
				授業時間外の学習				
1	乳児保育の意義と歴史的変遷			教科書のはじめに及び第1章を読んでおくこと。				
2	乳児保育の役割と機能			第2回から第6回は、事前に教科書を読み、内容を把握する。 また、乳児保育の現状と課題について、教科書、新聞、ニュース等を通じ問題意識を持ち、授業に臨む。				
3	乳児保育の基本							
4	乳児保育が必要とされる背景とその課題							
5	乳児保育における基本的な知識							
6	乳児保育における基本的な技術に基づく援助やかかわり							
7	おおむね6か月未満児の発達							第7回から第15回は、事前に教科書、及び、保育所保育指針解説書（第2章 子どもの発達）を読み、予習する。
8	おおむね6か月未満児の保育内容							
9	おおむね6か月から1歳3か月未満児の発達							
10	おおむね6か月から1歳3か月未満児の保育内容							
11	おおむね1歳3か月から2歳未満児の発達							
12	おおむね1歳3か月から2歳未満児の保育内容							
13	おおむね2歳から3歳未満児の発達							
14	おおむね2歳から3歳未満児の保育内容							
15	おおむね3歳児の発達を促す生活と遊びの環境							
<b>【購入テキスト】</b>		乳児保育研究会編『改訂新版 資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房、2011年発行、1800円						
<b>【参考書・資料】</b>		保育所保育指針解説書（厚生労働省編・フレーベル館）190円 幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷（萌文書林）1000円						
<b>【成績基準】</b>		定期試験		中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
	筆記試験	レポート	実技試験					
	70%	%	%	%	10%	%	20%	%

授業科目名 保育実践演習 I	授業担当者 安家 比呂志 山田 慎治	授業形態 演習	単位数 1 単位	配当学年 1 年	学期 前期				
<b>【授業の概要】</b> 実践主導の主義の保育士の育成に努める。 保育制度の新システムの導入に伴い、時代の変化に順応できる保育士のあり方を考える。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー	・現代の保育問題に関して保育的観点に基づき自らの意見が述べられることができる。 ・子どもの成長に関心を持ち、自ら調べ、考える態度を持つ。 ・あるべき保育士（教諭）としての目標が設定でき、的確な統計ができる。						
	表現する力	A				DPⅡ-1			
						DPⅢ-1			
	B	DPⅠ-3							
【授業計画】			授業の内容	授業時間外の学習					
1	保育体験実習事前指導			保育体験実習事前指導の内容を復習し、実習に向けて準備する。					
2	保育体験実習事前指導								
3	保育体験実習								
4	保育体験実習								
5	保育体験実習								
6	保育体験実習								
7	保育体験実習								
8	保育体験実習								
9	保育体験実習								
10	保育士としての心構え I			新聞等 保育（幼稚園）行政等の関連記事をよく読んでおく事					
11	保育士としての心構え II			新聞等 保育（幼稚園）行政等の関連記事をよく読んでおく事					
12	認定こども園について			新聞等 保育（幼稚園）行政等の関連記事をよく読んでおく事					
13	現地視察 2 時間分実施			視察先の保育理念・方針・目標を理解しておく事					
14	現地視察 2 時間分実施			視察先の保育理念・方針・目標を理解しておく事					
15	保育士としてのリスクマネジメント			新聞等 保育（幼稚園）行政等の関連記事をよく読んでおく事					
【購入テキスト】									
【参考書・資料】		日本保育協会発行資料							
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		70%	%	%	%	%	%	30%	%

授業科目名	授業担当者	授業形態	単位数	配当学年	学期
保育実践演習Ⅱ	日野 正信 竹内 一利	演習	1単位	1年	後期

**【授業の概要】**

保育に関する課題について現状分析、考察、検討をおこなう。保育に関わる課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法について学ぶ。

【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		保育に関する科目などを専門的知識・技術・判断を持って考察できるように、保育に関する様々な情報を分析し、活用できるようにする。現代の保育の動向と子育て支援の課題を読み解き、専門職としての他の機関に繋げることができるコミュニケーション能力を身につける。
	生きる力	B	DPⅡ-2	DPⅢ-2	
	感じる力	A	DPⅠ-1	DPⅠ-2	
			DPⅡ-3	DPⅡ-1	
	表現する力	A	DPⅢ-1	DPⅠ-1	
			DPⅠ-1	DPⅡ-3	
		C	DPⅡ-3		

**【授業計画】**

授業の内容

授業時間外の学習

1	「保護者支援」の課題を要約する。自己表現力を身につける①感動したことや普段の生活の様子を人前で発表する。	保育所保育指針 第4章 保護者と連携して子どもの育ちと社会的孤立をなくすための支援を考える。
2	行事への取り組み方・実際の保育現場の映像を見て、ディスカッションする。 VTR 視聴	保育所保育指針第2章保育の関係について考える。
3	ロールプレイによる保育士の職務内容を理解する。	散歩に出かけよう。身近なものに関わり感性が育つことを知る。
4	乳幼児の保育・教育の課題	保育指針第1章保育の計画及び評価について考える。
5	自己表現力を身につける② 弾き歌いを人前で発表する。	ピアノによる弾き歌い
6	実習の感想 振り返りレポート	レポート
7	「保育の質の向上」を考察する。「めざす子ども像」を分析、考察する。	つながる力・豊かな心・健やかな体・学ぶ力について考える。
8	「めざす子ども像」振り返りレポート	レポート
9	ファミリーサポートの拠点としての母子生活支援施設	子どもの貧困について考える。
10	DVとは何か？ DV被害で入所の母と子の支援	相談窓口・支援について考える。
11	児童養護施設とは	社会的擁護について学ぶ。
12	児童虐待	オレンジリボン運動に参加する。 (リボンを作ってつける)
13	保育の動向と子育て支援	子育て支援の課題
14	専門職としての心構え	全国保育士会倫理綱領
15	まとめ	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について、考える。

**【購入テキスト】**

【参考書・資料】 必要に応じて紹介する

**【成績基準】**

定期試験			中間試験	授業内提出物等	ホームワーク提出物等	授業への取組姿勢	その他(具体的に)
筆記試験	レポート	実技試験					
%	%	%	%	50%	10%	40%	%

授業科目名 幼児理解の理論・方法		授業担当者 大江 まゆ子		授業形態 講義	単位数 2単位	配当学年 1年	学期 前期				
<b>【授業の概要】</b>											
<p>幼児の姿を捉え、個々に応じたかかわりを考える際に有効な理論と方法について学ぶ。保育現場での具体的な事例から、長期的、多面的な視点を持ち、幼児の内面理解に努めることの大切さを学ぶ。また、どのように幼児がモノや人とかかわる力を身につけ、考える力を獲得するのか、協同し、創造的活動を生みだしていくのかについても理解していく。</p>											
<b>【到達目標】</b>	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児理解に必要な知識を身に付け、子どもの姿（表情、行動、言葉、声色等）から内面理解に努め、必要なかかわりを考える力をつける。</li> <li>・さまざまな保育実践に興味関心を持ち、保育者としての資質を高める。</li> <li>・積極的かつ受容的に子どもを見つめる姿勢をもつことができる。</li> </ul>						
	生きる力	A	DPⅢ-3								
	感じる力	C	DPⅡ-3								
	表現する力	C	DPⅠ-1								
DPⅡ-3											
<b>【授業計画】</b>				授業の内容				授業時間外の学習			
1	幼児へのまなざし 幼児教育思想から				<p>事前に教科書の該当箇所を読み、予習をする。</p> <p>実習後は、実習での子どもの姿、保育者の姿、環境構成からの学びと講義内容を結びつけ、学びを整理すること。</p>						
2	保育における幼児理解とは										
3	幼児の発達と保育方法										
4	環境による保育：環境を通しての指導と援助										
5	幼児の生活・遊びと保育形態										
6	幼児にふさわしい園生活の展開										
7	幼児理解のための保育者の基本姿勢										
8	幼児理解と援助・指導の具体的方法										
9	幼児理解を支える記録の重要性① どのような視点をもつか										
10	幼児理解を支える記録の重要性② どのように記録するか										
11	保育の計画と実践										
12	幼児理解のための視点 レッジョ・エミリアの幼児教育実践から学ぶ				日頃から、物事を肯定的に捉えるよう努め、子どもの姿から育ちを見とる姿勢を意識的に養うよう心掛けておくこと。						
13	幼児理解のための視点 テ・ファリキから学ぶ				日頃から、物事を肯定的に捉えるよう努め、子どもの姿から育ちを見とる姿勢を意識的に養うよう心掛けておくこと。						
14	幼児理解のための視点 個々の発達の理解・社会文化的発達観に学ぶ				日頃から、物事を肯定的に捉えるよう努め、子どもの姿から育ちを見とる姿勢を意識的に養うよう心掛けておくこと。						
15	これからの保育に求められるもの				新聞、ニュース等を通じ問題意識を持ち、授業に臨む。						
<b>【購入テキスト】</b>		広岡義之編著『新しい保育・幼児教育方法』ミネルヴァ書房、2013年3月発行予定、2,400円									
<b>【参考書・資料】</b>		適宜、配布・紹介する。									
<b>【成績基準】</b>		定期試験			中間試験	授業内提出物等	ホームワーク提出物等	授業への取組姿勢	その他 (具体的に)		
	筆記試験	レポート	実技試験								
	60%	%	%	%	20%	%	20%	%			

授業科目名		授業担当者		授業形態	単位数	配当学年	学期				
保育の表現技術・造形 I		小西 英子		演習	1 単位	1 年	前期				
<b>【授業の概要】</b>											
こどもの造形表現に関する知識と技術を修得することを目的として、制作実技を通して以下の内容の基本を身につける。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの発達との関わりについて。</li> <li>さまざまな素材の色、形、感触、イメージについて。</li> <li>表現活動の技法、環境設定、遊びへの展開について。</li> </ul>											
<b>【到達目標】</b>	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー		造形領域に於ける保育の方法についての知識を身につける。							
	感じる力	A	D P I - 1		こどもの造形の多様性を理解し、その個性を尊重する。						
			D P I - 2		こどもの造形表現について、自ら調べ、考え、意見を述べる。						
	表現する力	C	D P II - 3		造形表現の楽しさを体験し、その美しさを感じて伝える。						
		B	D P I - 3		保育の現場で実践できる造形技能と指導力を身につける。						
			D P I - 1		こどもの造形に於ける課題を認識し、積極的に解決に取り組む。						
C		D P II - 3									
<b>【授業計画】</b>				授業の内容				授業時間外の学習			
1	描画材料と技法・パスによるスクラッチ				プリント「スクラッチ」を予習、内容を把握する。						
2	描画材料と技法・クレヨン、ロウソクによるパチック				プリント「パチック」を予習、内容を把握する。						
3	描画材料と技法・コンテパステルによる混色とぼかし				プリント「コンテパステル」を予習、内容を把握する。						
4	描画材料と技法・ポスターカラーによる混色・純色				プリント「混色①」を予習、内容を把握する。						
5	描画材料と技法・ポスターカラーによる混色・清色と濁色				プリント「混色②」を予習、内容を把握する。						
6	スケッチブックのまとめ①色相環・色の種類				ポスターカラーによる色彩作品を完成させて確認しておく。						
7	授業内容の総復習①描画材料の種類、色彩				今までに制作した作品を揃えて確認しておく。						
8	版画材料と技法・版画制作①野菜でスタンプ				プリント「スタンプ①」を予習、内容を把握する。						
9	版画材料と技法・版画制作②手型押し・小物でスタンプ				プリント「スタンプ②」を予習、内容を把握する。						
10	ペーパーアート・心棒作りとデザイン				作品の参考となる資料を集めておく。						
11	季節の工作・七夕飾り				いろいろな七夕飾りを探し、観察しておく。						
12	ペーパーアート・着色				作品の参考となる資料を集めておく						
13	スケッチブックのまとめ②平面表現 ペーパーアート・ニス塗り				今までに制作した作品を揃えて確認しておく。						
14	授業内容の総復習②平面表現の種類と技法				スケッチブックとプリントを用いて復習をし、平面造形についてのポイントを暗記しておく。						
15	ポスター制作				作品の参考となる資料を集めておく。						
<b>【購入テキスト】</b>		なし									
<b>【参考書・資料】</b>		プリント配布									
<b>【成績基準】</b>		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)		
		筆記試験	レポート	実技試験							
		40%	%	%	%	60%	%	%	%		

授業科目名		授業担当者		授業形態	単位数	配当学年	学期		
保育の表現技術・造形Ⅱ		小西 英子		演習	1 単位	1 年	後期		
<b>【授業の概要】</b>									
こどもの造形表現に関する知識と技術を修得することを目的として、制作実技を通して以下の内容の基本を身につける。									
<ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの発達との関わりについて。</li> <li>さまざまな素材の色、形、感触、イメージについて。</li> <li>表現活動の技法、環境設定、遊びへの展開について。</li> </ul>									
<b>【到達目標】</b>	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー		造形領域に於ける保育の方法についての知識を身につける。					
		感じる力	A	DPⅠ-1	こどもの造形の多様性を理解し、その個性を尊重する。				
	C		DPⅡ-3	こどもの造形表現について、自ら調べ、考え、意見を述べる。					
	表現する力	B	DPⅠ-3	造形表現の楽しさを体験し、その美しさを感じて伝える。					
		C	DPⅠ-1	保育の現場で実践できる造形技能と指導力を身につける。					
	DPⅡ-3		こどもの造形に於ける課題を認識し、積極的に解決に取り組む。						
<b>【授業計画】</b>				授業の内容		授業時間外の学習			
1	切り紙・幾何学模様で作る…花・星・雪、等			プリント「折り紙・切り紙」を予習、内容を把握する。					
2	貼り絵・切り紙を用いた平面構成			切り紙を完成させて確認しておく。					
3	平面技法・墨流し、マーブリング、ドリッピング			プリント「墨流し、マーブリング、ドリッピング」を予習、内容を把握する。					
4	平面技法・デカルコマニー、ビー玉ころがし、ストリングス			プリント「デカルコマニー、ビー玉ころがし、ストリングス」を予習、内容を把握する。					
5	スケッチブックのまとめ・平面表現			今までに制作した作品を揃えて確認しておく。					
6	工作から遊びへの展開・紙コップで作る			プリント「紙コップの工作」を予習、内容を把握する。					
7	工作から遊びへの展開・クリスマスの工作① クリスマスツリー、クリスマスブーツ			身近にあるクリスマス飾りの作品を観察し、作り方を考えてみる。					
8	工作から遊びへの展開・クリスマスの工作② クリスマスカードとペンダント			身近にあるクリスマスカードを観察し、作り方を考えてみる。					
9	実習前講義 ・設定保育を行う場合のポイント・0歳児～2歳児の造形活動			0歳児～2歳児向きのおもちゃ、絵本を探し、観察しておく。					
10	工作から遊びへの展開・フェルトワーク			身近にあるフェルト作品を観察しておく。					
11	平面技法・ブラッシング			プリント「ブラッシング」を読み、内容を把握する。					
12	平面技法・折り紙見本制作			折り紙の「かぶと」と「あじさい」の折り方を予習、折り方を覚えておく。					
13	授業内容の総復習・平面表現の種類と技法			スケッチブックとプリント、作品を用いて復習をし、制作のポイントを暗記しておく。					
14	工作から遊びへの展開・身につけて遊ぶ…新聞紙とビニール袋で作る王冠とドレス①制作			身につける飾りのデザインを考えておく。					
15	工作から遊びへの展開・身につけて遊ぶ…新聞紙とビニール袋で作る王冠とドレス②制作・ファッションショー			ファッションショーに備えて、パフォーマンスを考え、練習しておく。					
<b>【購入テキスト】</b>		なし							
<b>【参考書・資料】</b>		プリント配布							
<b>【成績基準】</b>		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		20%	%	%	%	80%	%	%	

授業科目名 保育の表現技術・音楽Ⅰ		授業担当者 阪本 朋子・小西 淳子 村崎 愛・田代 恭也 横川 真美		授業形態 演習	単位数 1単位	配当学年 1年	学期 前期		
【授業の概要】 ① ピアノ実技進度表に則って、受講生各人のレベルに応じ指導する。 ② グレードⅠ修了で保育の表現技術・音楽Ⅰの単位を認定する。尚、グレードⅡは1年次に習得する事。 ③ 音楽の基礎として、楽譜を正しく読むことを学ぶ。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜を正しく読み、演奏する事が出来る。</li> <li>・繰り返し練習する事の大切さを学ぶ。</li> <li>・音楽の価値観の多様性を理解し、子ども達にその楽しさを伝える力を磨く。 ピアノ初心者→楽譜を正確に読む ピアノ中・上級者→ピアノ技術の向上 全員→歌唱に対する意識を高める</li> </ul>				
	生きる力	A	DPⅢ-3						
	感じる力	A	DPⅠ-2						
	表現する力	B	DPⅠ-3						
【授業計画】				授業の内容	授業時間外の学習				
1	ガイダンス グレード調査の説明と課題曲選曲 担当教員と顔合わせ								
2	個人レッスン				ピアノ実技進度にもとづいて指定された楽曲を練習する				
3	個人レッスン				ピアノ実技進度にもとづいて指定された楽曲を練習する				
4	個人レッスン				ピアノ実技進度にもとづいて指定された楽曲を練習する				
5	個人レッスン				ピアノ実技進度にもとづいて指定された楽曲を練習する				
6	個人レッスン				ピアノ実技進度にもとづいて指定された楽曲を練習する				
7	個人レッスン グレード審査準備				グレード審査の受験曲を決定し、エントリーシートに記入、期限までに提出する				
8	グレード審査①				グレード審査 受験準備				
9	合同授業 音楽基礎楽典を学ぶ				楽典復習				
10	グレード審査(楽典)				基礎的音楽理論の復習				
11	個人レッスン グレードに則して課題曲を練習する				ピアノ実技進度にもとづいて指定された楽曲を練習する				
12	個人レッスン グレードに則して課題曲を練習する				ピアノ実技進度にもとづいて指定された楽曲を練習する				
13	個人レッスン グレードに則して課題曲を練習する				ピアノ実技進度にもとづいて指定された楽曲を練習する				
14	個人レッスン グレード審査準備				グレード審査の受験曲を決定し、エントリーシートに記入 期限までに提出する				
15	グレード審査②				グレード審査 受験曲準備				
【購入テキスト】		「現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」 ドレミ楽譜出版							
【参考書・資料】		プリント配布							
【成績基準】 グレード審査結果を総合評価 自宅練習も評価対象		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		10% (楽典)	%	80%	%	%	%	自宅等で事前練習 10%	

授業科目名	授業担当者	授業形態	単位数	配当学年	学期
保育の表現技術・音楽Ⅱ	阪本 朋子・小西 淳子 村崎 愛・田代 恭也 横川 真美	演習	1単位	1年	後期

【授業の概要】

ピアノ実技進度表に則って受講生各人のレベルに応じ指導する。音楽の基礎として楽譜を正しく読むことを学ぶ。1年次に修了課題未到達者は2年次に継続履修する事。グレードⅡ以上修了で、保育の表現技術・音楽Ⅱの単位を認定する。

【到達目標】	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー	古くから培われた音楽（わらべうた、童謡）、今流行している音楽、こどもの感じる力を刺激出来る演奏能力を確立する。 楽譜に書かれた音楽を正確に演奏出来る。	
	生きる力	A		DPⅢ-3
	感じる力	A		DPⅠ-2
	表現する力	B		DPⅠ-3

【授業計画】

授業の内容

授業時間外の学習

1	個人レッスン 担当教員とグレード及び課題曲の確認	前期の課題を再確認 グレード達成に向けて練習方法を考える
2	個人レッスン グレードに則して課題曲を練習する	指定された楽曲を練習する
3	個人レッスン グレードに則して課題曲を練習する	指定された楽曲を練習する
4	個人レッスン グレードに則して課題曲を練習する	指定された楽曲を練習する
5	グレード審査③	グレード審査の受験曲を決定し、エントリーシートに記入 期限までに提出する
6	手あそび1 (手あそび、発声練習)	音楽と身体の動きを連動させる
7	手あそび2 (手あそび、発声練習)	手あそび審査の受験曲を決定し、エントリーシートに記入 期限までに提出する
8	手あそび試験 (グレードの単位認定に含む)	学習した手あそびより10曲選択し、試験に臨む
9	個人レッスン グレードに則して課題曲を練習する	保育実習Ⅰアンケート 指定された楽曲を練習する
10	個人レッスン グレードに則して課題曲を練習する	指定された楽曲を練習する
11	個人レッスン グレードに則して課題曲を練習する	指定された楽曲を練習する
12	個人レッスン グレードに則して課題曲を練習する	指定された楽曲を練習する
13	個人レッスン グレード審査準備	グレード審査の受験曲を決定し、エントリーシートに記入 期限までに提出する
14	グレード審査④ (楽典含む)	グレード審査 受験曲の準備
15	グレード審査⑤ (楽典含む)	グレード審査 受験曲の準備

【購入テキスト】

【参考書・資料】

【成績基準】ピアノ実技進度グレードⅡ以上を修了する事で単位を認定する。	定期試験			中間試験	授業内提出物等	ホームワーク提出物等	授業への取組姿勢	その他(具体的に)
	筆記試験	レポート	実技試験					
	%	%	80%	手あそび10%	%	%	自宅等で事前練習	10%

授業科目名 リトミック		授業担当者 横川 眞美		授業形態 演習	単位数 1単位	配当学年 1年	学期 後期				
<b>【授業の概要】</b>											
知的にかつ自由に動く事への基本姿勢の中で、聴覚を通し五感へアプローチする事が出来る知的裏付けと技術を学び、実践する。											
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		音楽を全体的に把握し捉え、その要素を分析し再度組み立てる事で、自らの思考のプロセスを理解し育て、根幹の表現する美しさを意識して体験することができる。 行動のすべては表現に繋がり、基本の技術と意思をもち徹底しようとする事が人格の形成に大きく関わる事を認識する。						
	生きる力	A	DPⅢ-3								
	感じる力	B	DPⅢ-1								
	表現する力	B	DPⅠ-3								
<b>【授業計画】</b>				授業の内容				授業時間外の学習			
1	リトミックの概念を理解する。				ダルクローズについて調べる。						
2	拍の保持、一拍の経験の中で、音楽の土台を作り、基本動作を学ぶ。				一定の速さで数える練習をする。						
3	拍の分割と拍子を学び、循環する強弱を体験し数への導入を行う。				定められた単位で数える練習をする。						
4	拍を組み立て、二拍の基礎リズムを学び、声、手、足の活動を行う。				2拍子のリズムパターンを覚える。						
5	表現法の強弱法を学び、動きに結びつける。				大きさに関する記号を理解し覚える。						
6	表現法の緩急法を学び、動きに結びつける。				速さに関する記号を理解し覚える。						
7	人間の動きを取り出し、速度、強弱、質感の違いによる表現法を学ぶ。				奏法に関する記号を理解し覚える。						
8	中間のまとめを行う。				2拍子の基礎リズムを覚える。						
9	擬音を含め言葉のリズムと抑揚を学び、言葉の表現への導入を行う。				擬音、擬態語を10個、準備をしておく。						
10	リズムの模倣、リズム聴取を行い、真似ることを通して聴覚、視覚を育てる。				リズムモチーフを5個、準備をしておく。						
11	メロディの模倣を行い、真似ることを通して聴覚、視覚を育てる。				童謡の旋律の一部を音名で歌えるようにする。						
12	複リズム、補足リズムを学び、立体的に組み立てる。				身体の2か所以上を動かす練習をする。						
13	複旋律を学び、立体的に組み立てる。				クリスマス曲の主旋律を数字譜で覚える。						
14	キーボードリトミックの基本を学ぶ。				動きに合わせてリズムが変えられるようにする。						
15	総合的なまとめを行う。				主リズム、複リズム、補足リズムの確認を行う。						
<b>【購入テキスト】</b>		ダルクローズ・システムによるリトミック指導1 全日本リトミック音楽教育研究会一編									
<b>【参考書・資料】</b>		保育園、幼稚園のためのリトミック〈リトミック研究センター〉									
<b>【成績基準】</b>		定期試験			中間試験	授業内提出物等	ホームワーク提出物等	授業への取組姿勢	その他(具体的に)		
	筆記試験	レポート	実技試験								
	20%	%	%	60%	%	%	20%	%			



授業科目名 保育実習指導Ⅰ事前		授業担当者 大谷 彰子 木下 隆志		授業形態 演習	単位数 1単位	配当学年 1年	学期 前期		
【授業の概要】 保育所の社会的役割・機能等を理解し、保育の目的・内容・方法を実習を通し修得するための事前指導を行う。保育現場で対応できる実践力、実習日誌の書き方、手遊び、製作、読み聞かせの方法、子どもの年齢別発達の特徴、実習に対する心構えなどを身に付ける。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		保育実習の意義・目的を説明することができる。				
	生きる力	C	DPⅡ-1		乳幼児と関わる中で問題を解決するための方法を身につける。コミュニケーションスキルを身につけ意欲的に乳幼児と関わる				
	表現する力	A	DPⅡ-1		実習の計画・実践に積極的に取り組み、自ら考える態度を身につける。				
			DPⅢ-1		「実習日誌」や「保育指導案」の書き方を身につける。				
【授業計画】				授業の内容	授業時間外の学習				
1	保育実習の意義・目的と内容								
2	保育所の役割と1日の流れ 保育実習先の選定方法				保育実習の実習先を調べ各園の特色を理解しておく				
3	実習記録の書き方（子どもの活動・環境構成）①各項目の基本的書き方を学ぶ				授業で出された課題を行う				
4	実習記録の書き方（子どもの活動・環境構成）②保育のDVDを通して				記録を作成し次週提出				
5	実習記録の書き方（子どもの活動・環境構成）③添削を受け修正				記録を作成し次週提出				
6	あけぼの保育園体験実習に向け実習生としての心構え 保育の見方（乳幼児の思いと保育士の意図）				記録を完成し次週提出				
7	あけぼの実習の事後考察 附属幼稚園実習に向けての自己課題				あけぼの実習での記録を整理し仕上げる				
8	実習記録の書き方（保育者の援助と配慮・実習生の動き・気づき）① 各項目の基本的書き方を学ぶ				テキストの実習記録の書き方を熟読しておく				
9	実習記録の書き方（保育者の援助と配慮・実習生の動き・気づき）② 保育のDVDを通して				記録を作成し次週提出				
10	実習記録の書き方（保育者の援助と配慮・実習生の動き・気づき）③ 添削を受け修正				記録を作成し次週提出				
11	附属幼稚園での観察実習の事後考察 保育実習に向けての自己課題				附属幼稚園での省察から課題を整理しておく				
12	附属幼稚園での設定保育に向け準備				附属幼稚園での設定保育に向け十分練習をして参加のこと				
13	附属幼稚園での設定保育				附属幼稚園での設定保育に向け十分練習をして参加のこと				
14	保育実践振り返りと自己省察				授業で出された課題を行う				
15	まとめ				実習に向けて、保育者意識についてまとめ、授業に参加のこと。				
【購入テキスト】		開仁志編著「実習日誌の書き方」一藝社、2012年発行、2310円 保育所保育指針 平成29年告示 フレーベル館 149円 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示 フレーベル館 149円							
【参考書・資料】									
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		30%	%	%	%	30%	30%	10%	%

授業科目名 保育実習指導Ⅰ事後	授業担当者 大谷 彰子 木下 隆志	授業形態 演習	単位数 1単位	配当学年 1年	学期 後期			
<b>【授業の概要】</b> 保育所実習、施設実習に向け、各施設の役割、通所、入所している乳幼児の発達、特徴を学ぶ。実習日誌や実習指導案の書き方、実習に必要な手遊び、製作、読み聞かせなどの実践力、子どもの年齢別発達の特徴、実習に対する心構えなどを身に付ける。実習体験を通し、子ども理解、保育士として身につけるべき保育技術と職業倫理を学び、保育士としての専門性を培う。保育実習の省察、自己評価をおこない、保育実習Ⅱにつながる各自の課題を明らかにする。								
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー	これまでの授業や実習体験を踏まえ、子どもの保育及び保育者の役割を総合的に理解する。					
	生きる力	C	DPⅡ-1	保育所の役割について理解を深め、自己課題をもち実習に臨もうとすることができる。				
	感じる力	A	DPⅠ-1	保育の計画、実践、記録、省察などに取り組み理解を深める。				
			DPⅠ-2	実習後に省察を行い、自己課題を明確にする。				
【授業計画】			授業の内容	授業時間外の学習				
1	保育実習の意義、目的、形態や方法、心得							
2	実習記録の書き方再抑え			観察実習での記録を持参し、書き方を復習しておくこと。				
3	模擬保育（教員）			教員の模擬保育からの学びをまとめる。				
4	保育指導案の書き方			保育指導案の書き方を復習し授業に臨むこと。 保育指導案を完成させ、保育教材等の準備、保育の練習をして授業に臨むこと。				
5	保育指導案の作成							
6	模擬保育の発表①							
7	模擬保育の発表②							
8	模擬保育の発表③							
9	保育所実習に向けて自己課題の明確化			授業で出された課題を行う。				
10	保育実習の自己評価と振り返り			授業で出された課題を行う。				
11	児童福祉施設の役割（保育所以外）と記録			施設実習先を調査しまとめておく。				
12	施設理解と施設職員の援助（乳児院）			各授業でのまとめと課題を行う。				
13	施設理解と施設職員の援助（児童養護施設）			各授業でのまとめと課題を行う。				
14	施設理解と施設職員の援助（母子生活支援施設）			各授業でのまとめと課題を行う。				
15	施設実習に向けて自己課題の明確化							
【購入テキスト】	開仁志編著「保育指導案大百科事典」一藝社							
【参考書・資料】								
【成績基準】	定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (具体的に)
	筆記試験	レポート	実技試験					
	40%	%	%	%	20%	30%	10%	%

授業科目名 保育実習Ⅰ（保育所）		授業担当者 大谷 彰子 木下 隆志		授業形態 実習	単位数 2単位	配当学年 1年	学期 後期		
【授業の概要】 保育所の社会的役割・機能等を学び、現場での実習を通して子どもの理解を深める。習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、乳幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟する。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		保育所の役割や機能を具体的に理解する。				
	生きる力	A	DPⅢ-3		観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。				
	表現する力	A	DPⅡ-1		既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。				
DPⅢ-1			保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 保育士の業務内容や職業倫理に着いて具体的に学ぶ。						
【授業計画】				授業の内容		授業時間外の学習			
<p>〈保育所における実習〉実習時間：おおむね10日間</p> <p>【保育所実習】 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。</p> <p>1. 保育所の役割と機能 ・保育所の生活と1日の流れを知る。 ・保育所保育指針の理解と保育の展開</p> <p>2. 子ども理解 ・子どもの観察とその記録による理解 ・子どもの発達過程の理解 ・子どもへの援助やかかわり</p> <p>3. 保育内容・保育環境 ・保育の計画に基づく保育内容 ・子どもの発達過程に応じた保育内容 ・子どもの生活や遊びと保育環境 ・子どもの健康と安全</p> <p>4. 保育の計画、観察、記録 ・保育課程と指導計画の理解と活用 ・記録に基づく省察・自己評価</p> <p>5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 ・保育士の業務内容 ・職員間の役割分担や連携 ・保育士の役割と職業倫理</p>				<p>実習を行う保育所を決定する。</p> <p>実習までに実習先施設の保育方針、ねらいなどについて調べ、オリエンテーションに臨む。</p> <p>保育所保育指針などを読み、保育のねらい、幼児の年齢ごとの発達などについて把握する。</p> <p>資料、本などで教材研究を行い、指導案や手作り教材を準備しておく。</p> <p>実習中は、毎日実習日誌を作成し、日々の自身の保育を省察し、翌日の課題を設定する。</p>					
【購入テキスト】									
【参考書・資料】				適宜、資料を配布する。					
【成績基準】		定期試験			中間試験	授業内提出物等	ホームワーク提出物等	授業への取組姿勢	その他（実習）
実習日誌	20%	筆記試験	レポート	実技試験					
		%	%	%	10%	10%	10%	10%	40%

授業科目名 保育実習Ⅰ（施設）		授業担当者 大谷 彰子 木下 隆志		授業形態 実習	単位数 2単位	配当学年 1年	学期 後期		
【授業の概要】 児童福祉施設の内容・機能等を学び、現場での実習を通して子どもの理解を深める。習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、要保護の乳幼児に対する理解を通じて施設保育の理論と実践の関係について習熟する。									
【到達目標】	カリキュラム・ポリシー		ディプロマ・ポリシー		施設の特徴を知り、子どもたちの生活を支える施設の役割を理解すること、生活を支えることの意味を考察し、さらに再考する中で、子どもの最善の利益とは何かを理解すること。そのために左記のポリシーを意識して授業に取り組むこと。				
	生きる力	A	DPⅢ-3						
	表現する力	A	DPⅡ-1						
DPⅢ-1									
【授業計画】				授業の内容		授業時間外の学習			
<p>（児童福祉施設における実習）実習時間：10日間（80時間）</p> <p>①実習期間：12月下旬から4月上旬</p> <p>②実習の目標：実習施設の概要を理解する</p> <p>○施設の種別・目的・沿革・規模・機構・利用者の概況・方針・特色・立地状況など、一日の生活の流れを理解すると共に、利用者・保育士・その他の職員の様子を全体的に把握する</p> <p>○一日の生活の流れ、作業指導や活動の様子、職員の役割、立場、職務内容、保育士の役割・地域社会、家庭等との連携の様子</p> <p>③実習計画：保育士や職員の補助的立場で養護活動に直接参加し、体験的に学習する</p> <p>○基本的な生活習慣の指導の理解と援助</p> <p>○生活訓練、矯正、治療などへの支援活動の理解と支援</p> <p>○学習指導、余暇活動</p> <p>○利用者との人間的な触れ合いの中で、保育士としての基本的な資質を身に付ける</p> <p>○利用者の基本的な理解と精神的・身体的発達の特徴を知り、適切な対応と援助について学ぶ</p> <p>○職員の職種別の役割分担と連携の大切さについて学ぶ</p> <p>○保育士の職務の一部を担当することにより、養護の実際を体験する</p> <p>○利用者と共に生活することにより養護の実際を体験する</p> <p>○施設における保育士の役割と機能を理解する</p>						<p>実習を行う施設の発表をする。</p> <p>実習までに実習先でのオリエンテーションに参加する。</p> <p>児童福祉法や養護原理などを読み、施設保育のねらいなどを把握する。</p> <p>要保護の理由や、その背景を理解し、また、生活の場としての保育者の役割を学ぶ。各施設の幼児の年齢ごとの発達を理解しておく。</p> <p>資料、本などで教材研究を行い、指導案を準備しておく。</p> <p>児童福祉現場における、福祉マインドと愛着、発達、生活支援を支える、育児能力について、心構えの準備をしておく。</p>			
【購入テキスト】									
【参考書・資料】				適宜、資料を配布する。					
【成績基準】 実習日誌 20%		定期試験			中間試験	授業内 提出物等	ホームワーク 提出物等	授業への 取組姿勢	その他 (実習)
		筆記試験	レポート	実技試験					
		%	%	%	10%	10%	10%	10%	40%